

基幹研究

視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等
の指導に関する研究

—特別支援学校(視覚障害)における指導を中心に—

(平成 29 年度～30 年度)

研究成果報告書

平成 31 年3月



独立行政法人

NISE

国立特別支援教育総合研究所

はじめに

特別支援学校（視覚障害）では、重複障害幼児児童生徒の在籍率が増加し、それらの幼児児童生徒に対する教育の充実が求められている。

その対応として、特別支援学校（視覚障害）では、様々な観点から取組がなされているところであるが、視覚障害への対応としては、保有する視覚の活用、及び視覚以外の感覚としての触覚、聴覚等の活用を図ることが重要である。それらの感覚を有効に活用するためには、十分に活用状況の実態を把握することが重要であり、その指導目標、指導内容、指導方法を見出すためにも、そうした十分な実態把握が必要である。

このことは、単一障害の視覚障害幼児児童生徒についてもそうであるが、重複障害幼児児童生徒にとっても大切である。併せ有する知的障害、肢体不自由等への対応も必要であるが、視覚障害への対応として、このことが重要であると言える。

この研究は、視覚障害を伴う重複障害幼児児童生徒について、保有する視覚の活用、視覚以外の感覚としての触覚の活用に視点を置いて、より適切な指導内容、指導方法を明らかにすることを目的に実施されたものである。

本研究では、まず、全国の特別支援学校（視覚障害）を対象として、視覚活用や触覚活用に関する実態把握に焦点を当てた全国調査を実施し、実態把握に関する課題を整理した。また、個別の指導計画に関して、その指導目標の設定等に関する課題を整理した。次いで、全国調査の結果を踏まえて、研究協力機関である特別支援学校（視覚障害）の協力の下、視覚障害を伴う重複障害幼児児童生徒について、視覚活用や触覚活用に関する実態把握及びそれらの活用、指導目標や指導内容・指導方法の設定に関する指導事例を収集した。また、特定の活動における視覚活用と触覚活用に関する実態把握を行う際の観点を整理した。

なお、研究成果の普及のために研究成果をコンパクトにまとめたリーフレットを作成した。

本研究の成果が、視覚障害を伴う重複障害の幼児児童生徒の指導の改善・充実に関わる学校や先生方の日々の実践に少しでも役立てば幸甚である。

平成 31 年 3 月

研究代表者 インクルーシブ教育システム推進センター
上席総括研究員 金子 健

目 次

はじめに

I. 研究の概要	1
1. 研究の背景	
2. 研究の目的及び意義	
3. 研究計画・方法	
4. 研究成果の普及、還元	
5. 研究組織	
II. 全国調査の結果概要	5
1. 目的	
2. 方法	
3. 結果	
4. 考察	
III. 視覚活用や触覚活用に関する実態把握に基づく指導事例	17
1. 目的	
2. 事例収集の方法と事例の概要	
3. 指導事例	
4. 考察	
IV. 視覚活用と触覚活用に関する実態把握の観点の検討	
—特定の活動における活用状況の整理及び行動観察の観点—	49
1. はじめに	
2. 特定の活動中での視覚活用の実態把握に関する観点	
3. 特定の活動中での触覚活用の実態把握に関する観点	
4. まとめ	
V. 総合考察	57
寄稿文 感覚障害を伴う重複障害教育について—視覚障害を伴う場合—	63
資料	71
機能的視覚評価の項目と方法	
リーフレット	

